

5. まちづくりの方針

本地区におけるテーマごとのまちづくりの方針を示します。

(1) 拠点性、土地利用

基本方針「主要な生活拠点にふさわしい土地の高度利用と拠点機能づくり」

①駅前立地を生かした土地利用

- 市営住宅跡地等を活用し、駅前やその周辺において、商業・業務施設、公共・公益施設、都市型住宅等の導入・整備など、土地の高度利用を図ります。
- 道路と鉄道の連続立体交差化と連動・連携しながら、鉄道敷地を含め土地の利活用が図られるよう検討していきます。
- 道路と鉄道の連続立体交差化により、まちの分断が解消されることを踏まえ、まちを一体化する土地利用を図り、利便性向上に寄与する拠点空間を創出します。
- 市内外から多くの方が訪れる横浜動物の森公園（ズーラシア）の玄関口であることも踏まえ、地域に交流や癒し、賑わいなどをもたらす安心・安全な広場づくりを目指します。

②行政機能や公共・公益施設等の更新・充実

- 市営住宅跡地等を活用しつつ、鉄道敷地の利活用の可能性も検討しながら、行政機能や公共・公益施設等の更新・充実を図ります。
- 行政機能や公共・公益施設等の更新・充実に際しては、施設の多目的化・複合化等の再編整備により、地域における施設配置の最適化、運営の効率化を図ります。再編整備により跡地や余剰空間・スペースが生じた場合は、民間事業者との連携や貸付・売却を検討し、財源確保につなげます。

③快適で賑わいのある商業空間の創出

- 既存の商業施設と連続した賑わい空間の形成を図ります。
- 多様な世代が快適に買い物などができる、地域に根差した商業空間づくりを目指します。

④いつまでも住み続けられるまちづくり

- いつまでも住み続けられるまちを目指し、多様なニーズに応えられる良質で持続可能な住環境の形成を図ります。
- 良好な住環境の保全に向けたルールづくりや、駅前における多様な住まい方に応えることが出来るシンボル性のある都市型住宅の誘導などを検討します。

(2) 道路、交通

基本方針「駅前交通機能の改善・強化と、安心・安全で暮らしやすい空間整備」

①道路と鉄道の連続立体交差化

- 交通渋滞の解消や地域防災力の向上、まちの分断等を解消するため、鶴ヶ峰駅付近で道路と鉄道を連続的に立体交差化し、複数の踏切を一挙に除却します。

②駅周辺の道路ネットワークの改善

- 地域の大きな課題である慢性的な交通渋滞を改善するため、駅周辺の道路ネットワークの改善により、円滑な交通処理を目指します。
- 歩行者、自転車、自動車の錯綜や緊急車両の通行に影響が出ないように、既存道路の改良などを進め、交通環境の改善を図ります。

③駅前広場機能の改善・強化

- バス利用者の更なる利便性向上を実現するために、商業空間の賑わいや連続性に配慮して、駅前拠点ゾーンにおける鶴ヶ峰バスターミナルと鶴ヶ峰駅の接続を強化します。
- 広範囲における多様な利用がある広域バスネットワークの拠点として、地域に適した新たな交通需要にも対応できるよう、駅前広場機能の強化を図ります。
- 規模の不足するタクシー乗降場や一般車の乗降について、駅前拠点ゾーンにおいて改善を図ります。

④歩行者・自転車利用環境の改善

- 鶴ヶ峰駅周辺道路において、快適で安全な歩行空間の確保、交通機関の乗換利便性向上、バリアフリー化の推進など、歩行者利用環境の改善を図ります。
- 鶴ヶ峰駅を中心にまちの南北を快適に回遊するために、地上や地下、デッキ動線を考慮して、歩行者動線の円滑化を図ります。
- 北口に点在している自転車駐車場の再構築などにより、自転車利用環境の改善を図ります。

5. まちづくりの方針

(3) 文化、水・緑環境

基本方針「駅前周辺における文化活動の促進と水・緑環境空間の拡充」

①文化活動の促進

- 広く文化にふれ合うことができ、多くの文化を育むまちづくりを行うため、畠山重忠ゆかりの史跡などの地域資源を生かしつつ、文化活動の核となる施設と周辺施設の幅広い連携を図ります。

②多様な世代間の交流環境づくり

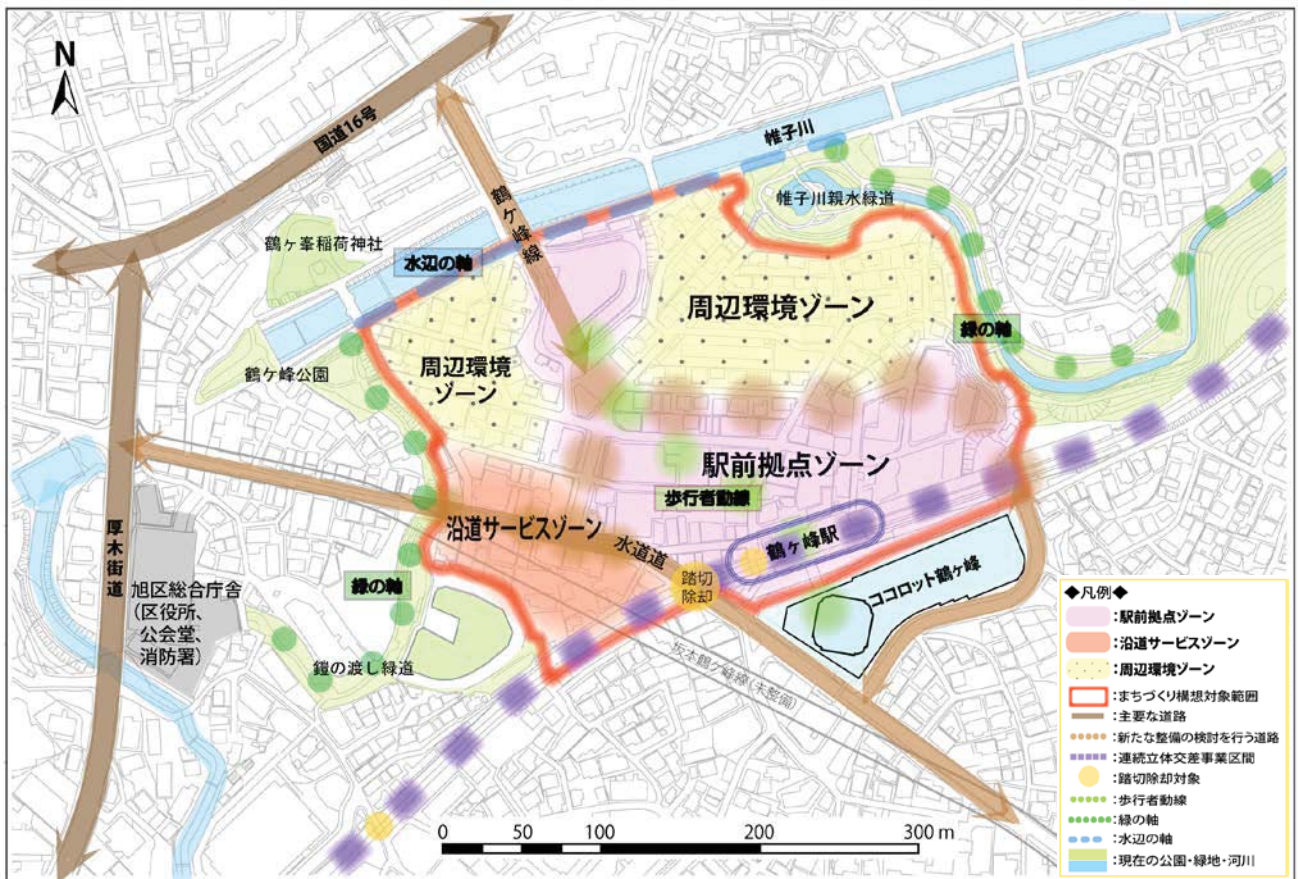
- 多様なニーズに応えることができ、世代間の活発な交流のために、様々なサービス機能を集積し、つながりを形成する環境づくりを目指します。

③水と緑のネットワークづくり

- 水辺の軸を構成する「帷子川」や緑の軸を構成する「帷子川親水緑道」、「鎧の渡し緑道」、「鶴ヶ峰公園」等の地域資源を生かしつつ、駅前などにおいて、魅力や潤いをもたらす緑の空間の創出、それらをつなぐ水と緑のネットワークの形成を図ります。
- 開発などの機会を捉え、鶴ヶ峰の魅力をさらに高める水・緑環境の保全・創出を図ります。
- 住宅などにある緑を生かし、身近な緑の保全・育成を図ります。

◇鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり構想図

テーマごとの方針を踏まえ、ゾーンごとの方針をまとめます。



○ 駅前拠点ゾーン

バスターミナルや商業、業務、住宅、公共・公益施設等が複合し、駅前の利便性を生かした土地利用を行うゾーン

◆ 主な方針

- ・駅前の立地を生かした土地利用
- ・行政機能や公共・公益施設等の更新・充実
- ・快適で賑わいのある商業空間の創出
- ・いつまでも住み続けられるまちづくり
- ・駅前広場機能の改善・強化
- ・歩行者・自転車利用環境の改善
- ・多様な世代間の交流環境づくり

○ 沿道サービスゾーン

水道道の沿道環境を生かした土地利用を行うゾーン

◆ 主な方針

- ・快適で賑わいのある商業空間の創出
- ・歩行者・自転車利用環境の改善

○ 周辺環境ゾーン

戸建てを中心とした住宅や緑道、公園、親水空間など、良好な住環境を形成するゾーン

◆ 主な方針

- ・いつまでも住み続けられるまちづくり
- ・水と緑のネットワークづくり

○ 地区全体及びその周辺にかかわる方針

- ・道路と鉄道の連続立体交差化
- ・駅周辺の道路ネットワークの改善
- ・文化活動の促進
- ・水と緑のネットワークづくり